



令和5年11月度第7回佐倉路地裏探検隊探索
—竜台・豊住・上福田・大竹地区庚申塔巡り—

令和5年11月15日(水)



佐倉路地裏探検隊

1. 成田市の歴史；

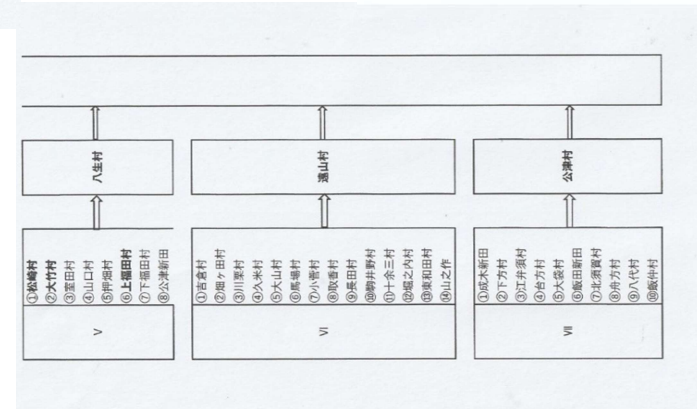
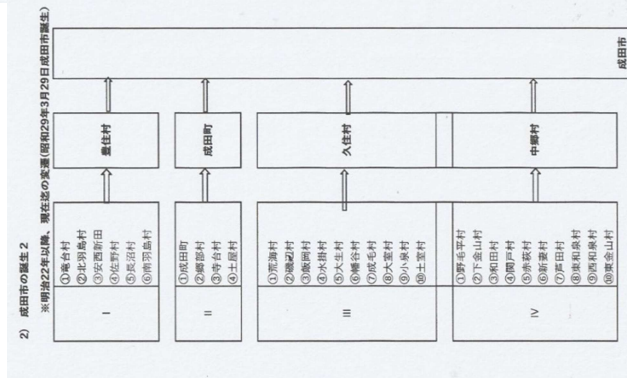
1) 成田市の誕生



成田市の町制変遷

	明治5年(1872)以前	明治16年	明治22年 4月1日	明治22年	明治29年	明治30年 4月1日	明治32年 4月1日	昭和7年 7月1日	昭和29年 3月30日	昭和29年 3月31日	昭和30年 12月1日	昭和33年 2月15日	平成8年 6月1日	現在													
下郷支那(しもはふ郡)	成田村	成田町	下郷支那 成田町発足	→	→	印旛郡に編入 成田町	→	→	→	成田市発足	→	→	→	成田市													
	藤原村	藤原村																									
	寺倉村	寺倉村																									
印旛郡	土屋村	土屋村	富里村の一部	→	→	富里村の一部	→	成田町に編入	→	→	→	→	→	成田市													
	日吉倉村の一部	日吉倉村の一部																									
下郷支那(しもはふ郡)	北新島村	北新島村	下郷支那 成田町発足	→	→	印旛郡に編入 成田町	→	→	→	成田市発足	→	→	→	成田市													
	赤野島村	赤野島村																									
	電谷村	電谷村																									
	安西農田村	安西農田村																									
	佐野村	佐野村																									
	長和村	長和村																									
	興津村	興津村																									
	奥川村	奥川村																									
	伊藤郡	伊藤郡													伊藤郡	→	伊藤郡	→	伊藤郡	→	伊藤郡	→	伊藤郡	→	伊藤郡	→	伊藤郡
	伊豆郡	伊豆郡													伊豆郡	→	伊豆郡	→	伊豆郡	→	伊豆郡	→	伊豆郡	→	伊豆郡	→	伊豆郡

2) 成田市の誕生 2



2. 散策コース (全般)



道標2基 (おはつ稲荷裏)



庚申塔(同)



仮称 六所坂下



延命地藏堂



北羽鳥郵便局付近

3.成田市の小字・大字の歴史

1)成田町

①成田村

【近世 成田村】；江戸期～明治19年の村名

下総國埴生(はにゅう)郡のうち。なお、江戸初期は香取郡埴生庄野内。文禄3年(1594)検地帳には「香取郡印東庄佐倉領内成田郷」と記載されている。村高は元禄郷帳(1688～1703)385余、「天保郷帳」「旧高旧領」共に459石余。うち成田新田19石余は、**享保16年(1731)の新田検地により高請された幕府領**。元禄14年(1701)指出帳によれば、家数98、馬43。寛政5年(1793)明細書上帳によれば、反別田32町9反余・畑屋敷13町4反余・永引2町3反(※えいびき：江戸時代に年貢の課税対象の地区・石高から毎年除外される事)・新田畑1町6反余、ほかに御林2カ所。家数148・人数647・馬18。安政7年(1860)家数193・人数971・馬33。安政4年(1857)「領分村高帳」によれば、**佐倉藩領385石余のうち 38石余は諸役御免で、小物成として茶代永37文・粟代永110文・山銭鑿(びた)2貫842文・野銭永550文が見える。佐倉牧のうち高野牧野付村の一つ**。神社は三宮大明神等、寺院は真言宗成田山新勝寺の他、延命院・観音院・正福院・曹洞宗安養院等。新勝寺は宝永2年(1705)佐倉藩主(14代稲葉正往)より寺領50石を賜い、常法壇林所ともなり、**又元禄16年以降(1688)11回江戸出開帳を行う等布教を努め、関東屈伸の寺院となりました**。新勝寺の興隆に伴い純農村であった成田村は次第に発展し、江戸中期以降門前町が形成されました。江戸に向かう**成田道をはじめ香取鹿島道・芝山道・安食道・佐原滑川道等の起点**でもあり、**北総における交通の要衝**になりました。天保14年(1843)には旅籠が32軒ありました。**門前町は本宿・仲町・田町・台町(後に横町が分離)から形成**。町場の発展は本来の宿場である隣村寺台村の生活を脅かし、弘化3年(1846)には宿場仲継権をめぐる成田村と寺台村との間でトラブルが発生しました。

明治6年千葉県に所属。同11年に埴生郡に編入。**明治19年戸数475軒。うち農業25軒・商業275軒・工業64軒・人力車挽稼業75軒等**。明治19年成田町になる。

【近代 成田町】；明治19年から同22年の町名

はじめ下埴生郡のうち。明治20年新勝寺が成田英漢義塾を創立。明治22年成田町の大字となる。

【近代 成田町】；明治22年から昭和29年の自治体名。初め下埴生郡、明治30年から印旛郡に所属。成田・郷部・寺台・土屋の1町3カ所と江弁須飛び地が合併して成立。旧町村名を継承した大字を編成。役場は成田に設置。明治24年の戸数790・人口4,549・馬86・舟14等。

【近代 成田市】；昭和29年から現在の市名。

昭和29年3月31日成田・公津・中郷・久住・豊住・遠山・八生の1町6村が合併して成田市が成立(佐倉市も同日に成立)

2) 豊住村

【近代 豊住村(とよすみむら)】；明治22年から昭和29年の自治体名

はじめ下埴生郡(しもはぶ)。明治30年から印旛郡に所属。利根川の南岸低地と下総台地に位置する。北羽島・南羽島・竜台・興津(おきつ)・安西・田川・佐野・長沼の8村が合併して成立。旧村名を継承した8大字を編成。村役場を北羽島に設置。明治24年の戸数686・人口3,452・馬209・船131。道路は成田町と結ぶ国道408号(長豊街道)にバスが運行。竜台から田川(現茨城県)へは利根川の渡船が交通手段。全戸数の7割以上が農家。主な産物は米・麦・雑穀豆・野菜類・養蚕は明治30年頃から盛んになる。利根川や長沼に面している為漁業に従事する家も多い。昭和19年遊水地帯であった長沼の開拓事業が村会議会で決議し一氣に十日川經由で利根川に流し僅か十日間で工事完了。戸数と人口は、明治37年 595・3,055、大正6年 613・3295。世帯数と人口は、昭和7年 599・3,004 昭和25年 694・3,791。明治32年 田川を茨城県金江津村に編入。豊住村は昭和29年成田市と合併。興津は安食町に編入

①. 竜台；利根川南岸に位置し、河川敷の低地部と下総台地突端部からなる。小倉屋敷と呼ぶ中世の砦址は、天正9年（1581）に栗林義長の常陸勢と織田信長の下総勢が戦った（“竜台合戦”と称す）ところである

【近世 竜台村】；江戸期から明治22年の村名。下総国埴生郡のうち、なお江戸初期香取郡埴生庄のうち。文禄3年(1594)に検地実施。初め佐倉藩領、寛文3年(1663)から幕府領。元禄年間(1688～1704)の旗本領を経て元禄14年(1701)から再び佐倉藩領、享保8年(1723)から淀藩領。村高は「元禄郷帳」689石余、「天保郷帳」「旧高旧領」共に594余。明和9年(1772)家数84・人数347、水田は早損場が多く良質の耕地が少ない。当村は大本家の竹内・石井・諏訪・大木・小倉の5家と石井分家2家の計7家で開発。古くは竹内が名主、石井が組頭を世襲した。村内に地獄水門・岡水門・吉浜水門等の水門があり、悪水堀上流の興津村（おきつむら）や佐渡村等の悪水落としを巡り度々出入りとなった。明治6年千葉県に所属。明治11年下埴生郡に編入。明治6年窮民救済を目的に、当村矢口河岸と田川村田川河岸との間に利根川の渡船が始まる。明治22年豊住村の大字となる

【近代 竜台村】；明治22年から現在迄の大字名。初め豊住村、昭和29年から成田市の大字。明治24年の戸数79・人口414・馬35・船4。利根川の渡船は明治44年区民79人の共同事業となった。昭和43年長豊橋の完成し、渡船は廃止。昭和5年には成田自動車のバスが成田～竜台間に1日7往復していた。温州ミカンの生産が盛んであったが、昭和29年の春雪で全滅

②. 北羽島村；根木名川西部の河岸低平地と台地上に位置する地名の由来は古代服部（はとりべ）が居住していた事による。鎌倉期には「羽鳥郷」が見える。地内には天正9年（1581）の竜台合戦の戦死者を祀る線香塚がある

【近世 北羽島村】；江戸期～明治22年の村名。下総國埴生郡のうち。江戸初期には香取郡埴生庄のうち。もと南羽島村と1村で文禄3年(1594)検地帳には「香取郡埴生庄北方之郷」と見える。初め佐倉藩領、寛文3年(1663)から幕府領、元禄11年(1698)旗本土岐氏から5氏の相給。元禄14年(1701)から再び佐倉藩領。享保8年(1723)から淀藩領。村高は「元禄郷帳」1,216石。「天保郷帳」「旧高旧領」共に1,207石。弘化元年(1844)家数137・人数782・馬56。明治6年千葉県に所属、明治11年下埴生郡に搬入、明治22年豊住村の大字となる

【近代 北羽島】；明治22年～現在の村名。初め豊住村、昭和29年から成田市の大字。豊住村役場を当地に設置。明治24年の戸数195・人口904・馬45・船9。昭和40年代に一部が南羽島に分村。場内北羽島として独立

3) 八生村

【近代 八生村（はぶむら）】；明治22年から昭和29年の自治体名

はじめ下埴生郡、明治30年から印旛郡に所属。印旛沼の東岸低地と下総台地に位置する。松崎（まんざき）・大竹・上福田・下福田・宝田・押畑・山口・公津新田の八ヶ村が合併して成立。旧村名を継承して大字に。村名は八ヶ村合併して生まれた事と旧叢が古く埴生庄に属していた事による。役場を松崎に設置。明治24年の戸数634・人口3,227・馬61・舟103。明治34年成田鉄道（現JR成田線）が成田～我孫子間が開通し、大竹に松崎停車場（現下総松崎駅）を設置。成田町から安食町を結ぶ路線（現県道成田安食線）が明治43年から4ヶ年継続修理により整備された。殆どの住民は農業を生業としており、明治後期から養蚕も盛んになる。印旛沼と根木名川・長沼に面している為漁業に従事する家もある。大正3年頃の「八生村誌」に「薪炭材木類を出し、その額亦8千円内外をくみならず、工作物には醤油粕、下駄、菓子類、建具、桶、表具類を出すと雖も其の数多からず」とある。戸数・人口は明治37年663・3577、大正6年660・3,894、昭和7年世帯数・人口は733・3,861、昭和25年 915/4,987、昭和29年成田市の一部となる。昭和初期の「八生村八景」は、松崎の陸橋、押畑の稲荷山、宝田の鳥羽山遠望、山口の雷神社、大竹の駅前、上福田の一本松、下福田の遠望、公津新田の集落である

①上福田村；江戸期から明治22年の村名

下総國埴生郡のうち。なお江戸初期には香取郡埴生庄のうち。江戸初期には福田村が分村して成立。天正19年(1591)と寛永8年(1631)に検地があった。初め佐倉藩領。享保8年(1723)淀藩領、延享3年(1746)からは田安家領。村高は「元禄郷帳」312石、「天保郷帳」「旧高旧領」とも313石余。小物成として茶園栗代野銭がある。享保19年(1734)の家数34・人数202。佐倉牧のうち「内野牧野付村の一つ。明治6年千葉県に所属。明治11年下埴生郡に編入。明治7年戸数26・人口143。明治22年八生村の大字となる。昭和29年から成田市の大字に。明治24年の戸数31・人口43・馬21・船6

②大竹村;

根木名川中流左岸。印旛沼東岸に位置する。地名は暦應年間（1338～1342）大竹左馬頭が居住した事による。

【近世：大竹村】；江戸期～明治22年の村名。下総國埴生郡のうち。なお江戸初期には香取郡埴生庄のうち。初め佐倉藩領、享保8年（1723）余戸藩領、延享3年（1746）から田安家領（※田安家；徳川将軍家の一族で田安・一橋・清水の3家をいう。田安は8代将軍吉宗の第2子宗武、一橋は同第4子宗尹、清水は9代将軍家重の第2子重好を祖とし、賄い料としてそれぞれ10万石を供せられている。3家は共に藩を持たず、領地は幕府領から目重く割かれているのみ。田安家は下総國埴生郡のうち16村他、甲府県八代郡・巨摩郡・和泉國・摂津國・播磨國等の一部を領地とした。その領地からあがる年貢を得ていた）

【近代：大竹】；明治22年～現在の大字名。はじめ八生村、昭和29年からは成田市の大字。明治24年の戸数102、人口545、馬20、船44。明治29年の印旛沼大洪水で大損害を受けた。明治34年成田鉄道大竹停留所(国鉄成田線下総松崎駅)開設

4. 竜台城址・長沼城址・広の台城址・大竹城等概要

竜台(りゅうだい)城址(小倉屋敷)

六所神社の道路挟んだ反対側の台地



長沼城址



広の台城址(北羽島香取神社向かい)



竜台城址



竜台城址遠方

大竹城址（小倉屋敷跡）

台地下に小倉館跡。台地上に竜台城址。但し存在の有無は不明。利根川に臨む竜台と呼ばれる台地で、急峻な独立台地で城郭の適地である。単郭子規の居館址で土塁が残っている。方形の土塁で一辺50m程。小倉次郎左右衛門の居館で、竜台合戦の戦場はこの台地である。七武将は延命地藏尊に、戦死した兵士は竜台東の北羽鳥新田のせんこう塚（線香塚）に埋葬されたと謂われる

広の台城址&竜台合戦；

北羽島の香取神社や浄蓮寺のある台地と南に向かい合った標高16m程の台地上にある。東側は長沼を望む位置。南北90m、東西40m程の規模。Ⅰ郭は三角形。Ⅱ郭との間に深さ3m・巾6m程の堀がありその東側は堅堀のように落ちている。Ⅰ郭には腰曲輪あり。西側には虎口があり、台地下には7軒の民家が。ここを「要害の七軒曲輪」と呼ぶ。**千葉氏一族の羽鳥新介の居城**。南北朝時代 熊野神社の神官鈴木豊教の次男豊将が羽鳥新介を名乗ったとか

竜台合戦：羽鳥豊勝の代に、北条氏政・氏直側は常陸栗林義長を先鋒とした14000の兵が下総北部を攻略せんとした時、織田政治・羽鳥豊勝・長沼五郎武俊・弟の長沼新八則房・同武道・荒海左右衛門重綱及び大竹次郎信澄の7将が安食大台で兵3000で迎え撃ち破れた。7武将の供養は延命地藏尊で行われた

長沼城址；

城主の長沼氏は結城氏の一族と謂われているが元佐倉城を拠点とした千葉氏の中で結城氏が存続していたのは少し疑問。中世室町時代にはこの辺りは**千葉一族特に大須賀系の豪族達が割拠していたので、長沼家もその一族か？**長沼という水運・漁業が盛んな地域の城に住んだ事もあり長沼を名乗ったのか？。高さ20m弱程の独立した孤島のような形状の居館で、主郭部の周りを浅い土塁が巻き下には腰曲輪や横堀・土塁が。現稲荷神社辺りに虎口があったのでは。場内北西部には櫓台のような土壇が里。現在は金毘羅神社の社がある。主郭部分は50mX100m程。**竜台合戦に負け廃城**

大竹城址；

竜台合戦で亡くなった大竹次郎信澄の居館で、特に遺構らしきものはないが、殿内・屋敷跡・処刑場・辺田郭・鍛冶作・馬渡等の地名が残っている。城址は25m程の台地上にあり、土塁らしき盛土のみ残っている。館跡は台地下で谷戸内部にあった土塁の館跡。JR下総松崎駅の北西に位置する。竜台合戦に負け廃城



5. せんこう塚（線香塚）

竜台合戦で敗れた七武将は延命地藏尊で菩提を弔われたが、敗れた数百の兵・雑兵が弔われたのはせんこう塚である。死者の霊に同情した近隣の人が手向けた線香が積り線香塚と呼ばれました。**昭和2年3月造立の「善光塚供養塔」**と刻字。主君に忠実で戦死した兵隊に”善行者”という意味で刻字したか？単なる誤字か？わかりませんが本来の善光塚は現在整地されてしまいましたが、現在地の後方にありました。そこは小高くなっていて、**見事な松（センコウヅカの松**と称す）がありました。**天正9年（1581）に埋葬した時の墓標替わり**と謂れています

6. おはつ稲荷

江戸時代後期、竜台村の農民の妻おはつに稲荷神が乗り移り、自らを生き神と称して人々の願いを託宣し、それがよくあつた。これに神主が目を付け、おはつを抱き込み弘化4年（1847）稲荷神社を建立しおはつ稲荷と名付けました。遠方からの参詣者も多かった。本堂手前の大きな石燈籠の台座には「蓮沼村」の地名もあり。しかし関東取締役によっておはつの託宣は禁止された

7. JR下総松崎駅（しもふさまんざきえき）

①明治34年(1901) 8月10日 成田鉄道成田～安食間に松崎駅（まつざきえき）開業。旅客と貨物取扱（※チッキってご存知ですか？” check”が語源。小口小荷物輸送サービスで、国鉄の小荷物取り扱い駅に小荷物 例えば布団・柳行李等を預ければ目的地の小荷物取り扱い駅迄乗車券の半額で輸送サービスしてくれるサービスで、早く預ければ同日に引き取れる。但し到着駅の小荷物取り扱い窓口に切符提示すれば荷物が受け取られます。駅から目的の家までは自己負担・自己責任で運ばねばなりません。主に学生が入学時の下宿先に荷物を送る時に利用（サラリーマンの通勤時と同様。明治6年～昭和61年迄のサービス）

- ②大正9年 成田鉄道が国鉄に。駅名が下総松崎駅に改名
- ③昭和36年 貨物取り扱いを廃止
- ④成田線安孫子駅～成田駅迄電化
- ⑤昭和62年(1987) 4月1日に国鉄民営化に伴いJR東に
- ⑥駅管理をJR子会社に業務委託。駅員は昼間（9:30～16:30）のみ配置
- ⑦乗車人員525人/日、最大1021（平成5年）年々減少中

8. 成田市の百庚申

百庚申は市内に4カ所あります。他市にもありますが、各百庚申は1カ所に100基在る訳ではありません。”多く”あるという事です。その地域は特に庚申講が盛んであった事を証します

竜台、宝田（後：うしろ百庚申と桜谷津）と西和泉地区です。

- ①竜台；数は99基（現在101基）で、寛政12年～安政6年(1859)で明治～昭和期の庚申塔が2基造立されています
- ②後；国道408号線宝田地区下福田にあり。29基。造立は文久2年(1862) 近辺
- ③桜谷津；国道408号線宝田地区桜谷津にあり。27基。造立は明治時代を中心のもの。13基は変わった形態。横長の石に縦に6本の線を刻む事で7つの区画に分け、それぞれに文字を彫った物です
- ④西和泉；西和泉地区にあり。6基。造立年代不明。以前は野毛平との境界のありましたが、市道の改良工事で隣接する現在地に移動しました

9. 成田市

昭和29年3月31日成田・公津・中郷・久住・豊住・遠山・八生の1町6村が合併して成田市が成立

成田市は千葉県の北部中央に位置する中核都市です。北には利根川が流れ茨城県に隣接。西は県立自然公園に指定されている印旛沼、東は香取市に接しています。市内西側には根木名川、東側には大須賀川が流れ、それらを取り囲むように水田地帯や肥沃な北総台地の畑地帯が広がっている。北部から東部にかけての丘陵地には工業団地やゴルフ場が点在。南には空の玄関口・成田国際空港があります。また市の中心部の成田地区には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄毎年多くの参詣者で賑わい。明治4年廃藩置県後、数度に渡り所管の郡の変遷があり、現在の市域は印旛郡。昭和29年3月31日町村合併により成田町・公津村・八生村・中郷村・久住村・豊住村・遠山村の1町6村が合併して成田市（人口45,075人）が誕生。昭和41年7月4日新国際空港設置決定。53年5月20日に開港。平成18年3月27日香取郡下総町・同大栄町とを合併し新成田市誕生（人口約12万人）北総台地の中核都市として更に飛躍が予想される。平成25年人口13万人想定。以降も令和12年には13.7万人と他市と異なり人口増が想定される。成田国際空港の拡張・交通の便が良くなる・工業団地が増える等々が起因

10. 北羽鳥香取神社の獅子舞

1) 毎年第一日曜日に「北羽島の獅子舞」が奉納されます。五穀豊穡を祈願して奉納される成田市無形文化財に指定されている郷土芸能。”風流系の獅子”と謂われる一人立ちの獅子舞で口伝により伝承される3匹による舞が特徴。竜の頭を頂き、腹に太鼓を付けた大獅子、中獅子、雌獅子の3匹で舞われるもので江戸時代から伝承。舞は14曲の「ほんしば」と、10曲の「花がかり」の2種類で構成され、社殿前の地面で幣束（へいそく）を立てて行います。

北羽島の香取神社は、弘安5年（1282）に、千葉県香取神宮本宮から分霊を勧請して創建された。祭神は経津主神（ふつぬしのかみ）です

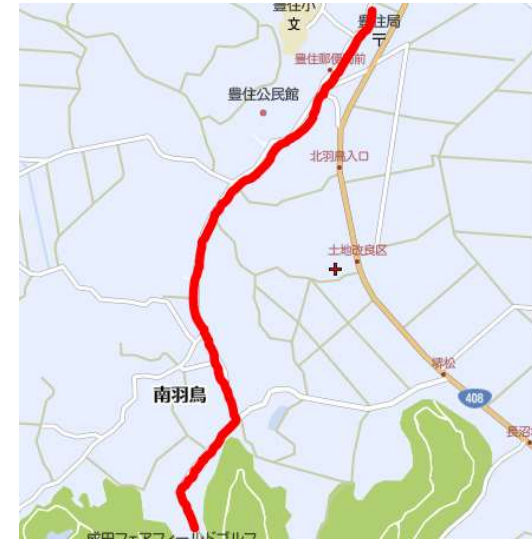
2) 獅子舞の様子



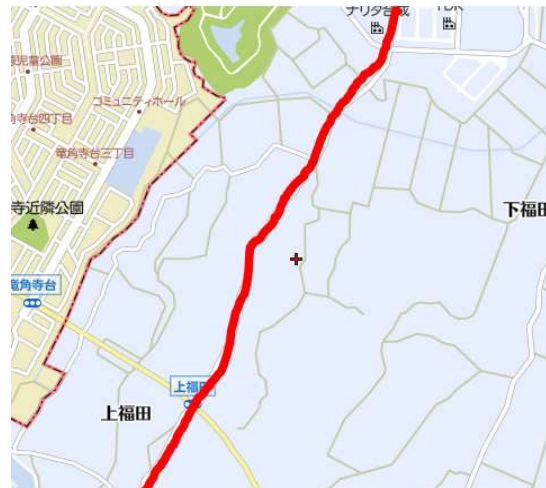
12. 散策マップ（個別）



1



4



5



6

地区スポット説明

1	2	3	4
京成成田駅東口	京成成田駅東口バス停 (成田市コミュニティバス)	竜台稲荷神社 (おはつ稲荷)1	竜台稲荷神社 (おはつ稲荷)2
			
<p>京成電鉄成田駅の改札口は一つ。正面改札口です。正面改札口を出て、右折して直進すると階段を下り右に線路の下をくぐって直進すると下りエスカレータとエキスペディアがあります。下はロータリーでバス乗車場です。エスカレータを下り、少し左側に4番京成成田駅東口バス停がありコミュニティバス乗り場があります。竜台車庫で下車</p>	<p>バスの本数が少なく、今回は7時前のバス最適で次は10時台です。普段茨城県より一般道路を使って成田経由帰宅される場合は長豊橋を渡られているのではないのでしょうか</p>	<p>竜台車庫から少し戻り右側奥に鳥居がみられます。之がおはつ稲荷です。あかい本殿になっています。この神社の謂れは上記No6をご参照下さい。一人の女性の能力？とそれに便乗した神主の商才が関係した神社でした。おはつも趣味でこじんまり身内だけで済ませておけば良かったのですが</p>	<p>竜台という地理的特異性があったのでしょうか？利根川の河岸による茨城と千葉とを繋ぐ場所。成田山への巡礼道の一つ等々で多くの人が行き来したのでしょうか。成田山にお参りし色々祈願すればよかったのですが。とはいっても成田山が大きく開けたのは江戸中・後期です。それまではそれ程大きく発展していませんでした。大師堂が意外と少ないですね。江戸後期に盛んであった十善講が何故かこの地域だけ余り見られないのは何か理由があるのでしょうか？</p>
			

5	6	7	8
道標(2基)	馬頭観音(2基)	大日如来像	出羽三山塚供養塔と廻國塔 <small>カイコクノ</small>
			
<p>1) 右側の道標; 裏面 天明二壬寅(1782)十一月吉日 竜台村施主諏訪源之〇 右面 此方 なめ川道 正面 不明 左面 此方 なめ川地藏尊かけこし道</p> <p>2) 左側の道標; 正面 御即位記念 大正五年三月 竜台青年会 右面 此方 滑川町及成田町 滑川町へ一里 成田町へ一里 左面 此方面 地藏尊ニ至ル約五十〇 裏面 西矢口ヲ経テ安食町ニ至ル</p>	<p>右側の刻像は、少し剥落しており刻字が読みきれませんでした。左側は文字塔で「馬頭観音 〇年六巳年〇(月)吉日」と読めます</p> 	<p>法界定印を結ぶ大日如来です。宝永5年(1708)10月8日の建立で「下総國埴部郡竜台村 施主男女六十三人」と刻まれている。毎年旧暦10月8日は「大日様の祭」と呼ばれ三本の柱と藁で石像の前を飾ります。この飾りは「大日様の飾り」と呼ばれています。まるで出羽三山塚信仰にみられる梵天のようです。出羽三山信仰の講を八日講と呼ばれており、この大日建立像は竜台の出羽三山信仰の人が造立したものです。命じ年間迄出羽信仰はなくなり、「大日様の祭」として引継がれました。正面の梵天に変わる四角の升目状の藁性の飾り物は始めて見ました</p> 	<p>大日如来像の左に2番目にはこの地区には珍しい三山塚が1基あります。嘉永元年(1848)7月造で「湯殿山・月山・羽黒山・西国・秩父・坂東供養塔」です。大日如来像の右隣は六十六部供養塔碑で「文久二年(1862)奉納大乘名妙展 日本廻國」と刻字されています</p> 
			

9	10	11	12
<p>タツダイ ヒヤクウシン 竜台の百庚申</p>	<p>踊る三猿1</p>	<p>踊る三猿2</p>	<p>竜台上曲輪集会所の 二十三夜塔(2基)</p>
			
<p>この地区には所謂「百観音」は3カ所あります。宝田・後(27基)と北羽島(29基)と竜台の百観音です。竜台には綺麗に整備された庚申塔が101基あります。前列49基(刻像9基)後列52基(刻像7基)で計101基(刻像16基)です。並んだ石像はびっしり詰めて並んでいる為左右の刻字が読めません。ただこの地区は庚申講が非常に盛んであった事は明々白々です。子安観音や月待供養塔、馬頭観音が余り見かけなかった事が特徴です</p>		<p>百観音の中の1基に三猿が踊っています。嘉永7年(1854)造立の庚申塔です。左から耳、口、目に関わる猿です。烏帽子をかぶり太鼓を打ち、御幣や扇子を手に持ち踊る三猿です。佐倉市にも井野庚申塚に1基踊る三猿が刻像された庚申塔があります。神奈川県江の島の「郡猿奉賽像庚申塔」は36匹の猿が踊っていて国内最大になります</p>	<p>竜台上曲輪集会所の敷地左手前隅に成田山新勝寺講の大師堂があります。その左の石像には安永2巳造立(1773)造立の二十三夜講中で、正面中央に観音様を刻像安永二巳(1773)十月吉日と刻字。右の石像は享保13年(1727)造立の月待塔です</p>
			

13	14	15	16
元弁池と弁天神社	坂(仮称 六所坂) (ろくしょざか)	いぼ神様	六所神社社1
			
<p>弁天池と弁天神社は、隣接する養魚魚(何の魚を養殖しているか不明)と埋立地に変貌していました。恐らく台地から染み出た湧水がたまった小さな池だり、小さな架け橋につながった神社があったものと想像します</p> 	<p>利根川沿いの竜台の平地地から六書神社のある竜台の高台に上る旧道の坂道です。約10度、130m程の鬱蒼とした坂です。両端とも民家が見当たらないので寂れた坂でもあります</p>  	<p>坂の途中左側に、何故か柄杓がいっぱい並べてぶら下げられたりしています。何故”疣神様”なのか？”柄杓があるのか？分かりません。所謂疫病や悪人等を村に入れぬ”風の神様””道祖神”と考えられます。お水やお茶を飲んで疫病等追い出すという意味でしょうか？</p>  	<p>六所神社は全国到るところにあります。六つの神様を祀っているので、このような名前がついています。その6柱は伊弉諾・伊弉冉・大己貴尊等が含まれています</p>  

17	18	19	20
六所神社社2	唐式狛犬	夫婦杉	庚申塔兼道標と庚申塔(2基)
			
	<p>岡崎型狛犬です。南羽鳥の境内社である熊野神社の天神様がこの六所神社の遥拝所を兼務(神職も兼務)している為、熊野神社で六所神社のご朱印をいただけます</p> 	<p>根元で二股に分かれた御世と夫婦杉です。よくあるパターンです。二股のそれぞれの幹もその後真直ぐに伸びています。樹齢は木札には380年とありますが400年に達するのではないのでしょうか？六所神社参道の両側にも巨木の杉の大木が一杯あります。手入れも十分されておられるようです</p> 	<p>六所神社手前の三差路に庚申塔兼道標が1基あります。刻像です。もう1基は文字塔です。背型・月日・6臂・2鶏・3猿の青面金剛像。右面には安永六丁酉年(1777)8月吉日、根本建、東ハなりたみち南地藏道(土台)左面ハ矢口村一ノ宮北ハ舟わたし道と刻像。他は文字塔で正面には庚申塔、明治3年吉日 大木氏と刻像。文字塔は大木氏が飼っていた馬の供養塔になります。実は刻像の庚申塔兼道標になっていますが、この前の道は旧成田街道と伝承される道です</p> 

21	22	23	24
----	----	----	----

道祖神

延命地藏院

**本多東川・雪塚
(春日庵南道の寿蔵碑)^{ミカニン}【未確認】**

二十三夜塔と変な顔の庚申塔

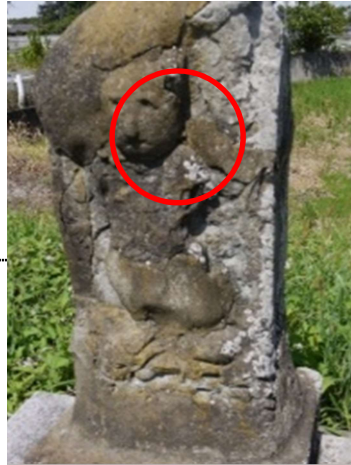


2基の庚申塔の奥には、巨木の樹の下には小さな石社の道祖神があります。その周りを見ると無数の駒形の石の同型の道祖神が山森状態です。丁度Y字路にあります。現在下に下る道は雑草が生えて歩けない状態

荒れ果てた寺院です。一見して民家の庭先に入った気分になりますが、燈籠やこれまらあれはてた大師堂を含めた社には驚きます。じっくり見ると意外と文化財に相当する色々な石物があります。上記に記した「竜台合戦」で戦死した小田政治と小田方の長沼武俊・同則房・荒見重綱・大竹信澄・羽鳥豊勝・同武道の七武将の菩提を弔う為に戦後竜台村の竹内弥兵衛が創建しました。この地藏堂には延命地藏菩薩がご本尊として祀られています。天台宗です。

六地藏の後は**亀に乗った本多東川の墓石**があります。名を友直といい、江戸の人で宝永年間(1704~1711)に長沼村に来て漢方医を開業、その側近隣の人に学問を教えました。享保18年(1733)竜台村に転居し、宝暦9年(1759)亡くなりました。東川の左側に、夫婦戒名の下に「雪塚」と刻んだ墓石があります。俳人の小林一茶と親しく、竜台村に住んでいた春日庵南道の「寿蔵碑」です(※じゅどう 生前に建てておくお墓の意)南道は通称鈴木儀左衛門と謂い30才過ぎに江戸の**今日庵元夢に入門**。寛政3年(1791)4月一茶が利根川を下り竜台を訪れ南道と会っている。南道が陸奥に旅立つ時に一茶は「飛ぶことなかれ 汲むことなかれ山清水」と餞別の句を詠む。なお雪塚側面には南道の句「世に積る瑠瑕(ゆか)を隠すや雪乃塚」が彫られている

県道408長豊街道を跨いで利根川支流沿いに2基の石仏があります。右側には十三夜塔があります。嘉永5壬子(1852)2月吉日 竜台善光塚講中。左側は庚申塔ですが青面金剛像の顔が修理され全くのお化け状態になっています。手を合せる気も起きません



変な顔!!

25	26	27	28
----	----	----	----

北羽鳥交叉点バス停



旧道沿いの庚申塔 (3基)と
六十六部供養塔



旧道沿いの街並み



豊住村十字路



旧寺家村から合併して(詳しくは上記参照)豊住村になりましたが、この豊住村は昭和29年3月に成田町と合併し成田市となりますが、このバス停より東側の幹線で三叉路の郵便局辺りは、その旧豊住村の中心地域です。**小さな声の神の声が聞こえます！このバス停か次のバス停あたりで京成成田駅東口行きコミュニティバスが2, 30分後に来ます。他の乗客もおられるので20名程度は乗車出来るか？**お疲れの方はこのバス停でお待ち下さい。元気な人は下総松崎駅まで歩くぞお〜)

右から3番目が六十六部供養塔で他3基は庚申塔。一番左は文字塔です。一番右側は日月・光背型・2鶏・邪鬼・3猿・3臂青面金剛像 明和4丁亥9月吉日(1767)。2番目も日月・3臂(シヨコラ)青面金剛像・2鶏・邪鬼・3猿。天保2年申卯4月(1831)。3番目の六十六部供養塔には駒形・日月・青面金剛王・天保8丁酉7月吉日(1837)奉納大乘妙典〇〇日本回國 行者 久右エ門



十字路から見た豊住郵便局です。かつての村役場は、道路元標の位置からこの郵便局敷地の隣接地豊住公民館あたりと思われる



29	30	31	32
----	----	----	----

豊住村道路元標

五叉路の道祖神社

五叉路の道標(3基)

JA成田市豊住支所



豊住村の道路元標です。明治6年明治政府の太政官通達により各県毎に木製の「里程元標」を東京日本橋と京都三条橋を起点として設置させました。大正8年4月道路法施行令により各市町村等の国・府県道・町村役場を起点として「道路元標」を設置させました。勿論各市町村に1基ずつです。現在見かける石造のものは大正期の道路元標です。この道路元標は豊住村の大正期の道路元標です

社の前には駒形の小さな道祖神と男根の石像が無造作に納められています。竜台への旧成田街道に繋がります。竜台の渡しから利根川、大沼経由で成田山へお参り。香取神宮・鹿島神宮へは更に利根川を下ります。勿論徒歩でも行けますが

道祖神の社の外に十分整理しないまま石仏が建てられていたり積まれたりしています。3基の道標は完全によみきれませんでした。一つは庚申塔兼道標で、正面は庚申塔 天保6年丙申(1835)2月吉日 右面 ○○道 豊住村講中 左面 まり子みち 残り2道標は読見切れませんでした

現在は米作が大半で、畑作としてサツマイモ・大根・人参等が中心となります。明治じだいには養蚕や茶等も盛んであったそうです。利根川沿いなので平坦地(干拓地)は洪水で毎年のように被害を被った場所です。高台地区に畑作やお茶・鍬畑であったのでしょう。灌漑後に利根川から用水を引いて市内の水田・畑地に水を循環させています



33	34	35	36
<p>坂(仮称 豊住坂) とよずみざか</p>	<p>天満宮</p>	<p>北羽島香取神社</p>	<p>階段下の庚申塔(2基)</p>
			
<p>約10度・320m程です。県道408号長豊街道とほぼ並行していますが、所詮は脇道。車の往来は少ないです。かつては豊住村の中心地でその幹線道路になりますが</p> 	<p>道端の鳥居をくぐり階段を上ると、小さな社があります。之が天満宮です</p> 	<p>全国に凡そ400社の香取神社の一つで香取の香取神社を本宮とします。毎年4月第一ぬ市曜日に五穀豊穰を祈念して獅子舞が奉納されます。成田市の指定無形文化財に指定されています。一人立ちの3匹の獅子舞でおなかに太鼓を結んだ大獅子・中獅子・雌獅子で舞います。弘安5年(1282)香取本宮より香取神社として遷座されました</p> 	<p>左側は光背・6臂・邪鬼・3猿・2鶏ではなく2童子です。もう1基右側には刻像の青面金剛・6臂・2鶏・邪鬼・3猿です。共に造立年を確認できませんでした。近隣にあった物をこの階段下の左右に移動させました</p> 
			

37	38	39	40
北羽島香取神社(拝殿と本殿)	ご神木	祓戸神社(はらえど)	常蓮寺
			
 	<p>香取神宮からこの地に香取神社が弘安5年(1282)遷座した折のご神木とされました。樹齢約800年弱と思われます。立派な御神木です。真直ぐ伸び樹姿も非常に良いと思われま</p> 	<p>余り見ない神社です。神道においておはらいを司る神様が祓戸大神で、祓戸(祓所・祓殿)はお祓いを行う場所の意味です。祓戸大神は日本神話の神産の段で黄泉の國から帰還した伊奈那岐命が禊(みそぎ)をした時に加勢した神々の総称です</p> 	<p>天台宗 豊住山常蓮寺で、ご本尊は銅造阿彌陀如来立像で室町時代作。別名「山越えの阿彌陀如来」と呼ばれています。創建年ちは不詳ですが、元和元年(1615)3月に秀覚上人が中興開山と謂れています。境内の大きな銀杏の幹が一部削られ地藏尊が祀られています。この地藏尊を「ぼっくり地藏尊」と呼ばれています</p> 

41	42	43	44
庚申塔(4基)	街並み1	街並み2	国学者 鈴木雅之の墓
			
<p>成田市北羽島南部共同利用施設の一角で道端に4基の石像が並んでいます。残念ながら4基の刻字を読み切れませんでした</p>  	 	<p>T字路を左折して県道408号長豊線に出て京成成田方面に。右折すれば上福田経由でJR下総松崎駅に出ます。途中右側に成田フェアフィールドゴルフ場、左は豊住工業団地の間の幹線に出ます。私達が最初に乗車したコミュニティバスとは逆に戻る形になります</p>  	<p>幕末から明治初期に活躍した国学者鈴木雅之と妻万喜子のお墓です。天保8年(837)に南羽島村の農家鈴木清兵衛の長男として生まれ、18歳の時に飯岡村の歌人神山魚貫に入門。和歌や国学を学んだ。20歳頃に郷里を去り香取郡内の富農家に奇遇し、その家の蔵書を読み漁り、時に寺子屋の師匠をしながら国学の宣布に勤めました。明治2年肴貫門下の兄弟弟子伊能穎則に招かり上京。新政府が開いた大学で少助教に。明治4年には少博士に任ぜられた。しかし35歳の明治4年4月に早死しました</p> 

45	46	47	48
----	----	----	----

トイズミ コウキョウダンチ
豊住工業団地

庚申塔(1基)

上福田地区の幹道

上福田交叉点



成田市には4カ所に工業団地があります。豊住、野毛平、大栄そして成田新産業パークです。豊住団地は31.6h、野毛平は74.3ha。分譲企業20社、野毛平は26社です

右側ゴルフ場際の幹線沿いに1基庚申塔兼道標があります。正面には月日 庚申塔 天保2年2月吉日と刻字右側に〇〇ミち 左には 〇〇ミち 豊住村講中と刻字。なかなか刻字が読み取れません。手元に成田市の石仏に関する資料が無いのは残念！



龍角寺抜ける県道18号・成田安食バイパスとの交差点上福田交叉点です。このバイパスは国道408号線の成田山裏門入口”を起点とし、栄恵町安食の国道356号(銚子から我孫子。ほぼ利根川に並行)との交差点迄続きますが、その途中の上福田交叉点です。車の料はそれ程ありません



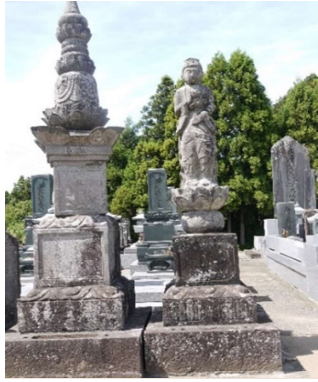
49	50	51	掛番1
----	----	----	-----

上福田の超豪華な墓石(圓光寺)

大竹の不動堂

JR下総松崎駅

途中にある浅間神社



何と立派な墓石でしょうか？少し離れた所にある真言宗豊山派の圓光院の墓地です。ここにある7基の七層墓石は**成田市の指定文化財**です。**応永10年(1403)造立で室町時代**です。どうい人なののでしょうか？地元の豪族なのか？お金には心配ない人で農民ではないでしょう。庄屋さんにしては大きすぎるし？

下総松崎駅近くにはブロックで作られた不動堂とその隣には子育て観音立像と後1体と2童子は何の像？天属の仏像？童子は何？光背を持った仏像？不動明王なら制吒迦(せいたか)童子と矜羯羅(こんがら)童子になります。多分不動明王でしょう。隣には御簾に入った大師様です

近くに県立房総のむら、坂田ヶ池総合公園等があります。現在乗降客は1日600人程平成食は900人程でした、ので、やはり減少傾向にあります。明治34年8月10日成田鉄道として成田安食間が開業した。その中間に「松崎駅」が開業貨物と旅客併用。大正9年に成田鉄道が国有化され下総松崎駅となりました。昭和36年に貨物の取り扱いをやめ、昭和48年10月1日安孫子～成田駅間開通しました

羽鳥香取神社の先の民家の隣に浅間神社があり、その境内には、二十三夜塔、出羽三山塚等も祀られています



掛盤2

圓光寺(No49関係)



県重要文化財 石造多層塔（7層・応永10年＝1403造立）正面に胎藏界大日如来像、左右面に光明真言の梵字、上部の笠に阿弥陀の文字が印刻



圓光寺山門



圓光寺墓地内墓石。寛文2年(1662)、貞享4年(1687)等古い墓石

大竹集落北部にあり。殖生山無量院圓光寺。藤沢市遊行寺末寺。成田市内には時宗のお寺はこの大竹の圓光寺と名古屋の乗願寺の2時のみ。本尊は阿弥陀如来(善光寺式の三尊で観音菩薩と勢至菩薩を脇侍;わきじとしている。県有形文化財)。筑前国御笠郡の武家出身である教勸が正和(しょうわ)3年(1314)開山。教勸は時宗二代真教上人(一遍上人の初弟子)の弟子となり、以来真教上人に随従し諸国行脚。正和3年当地で1寺を開山。正徳元年(1711)火災。同年本堂再建。現在の本堂は昭和47年再建



土台正面の胎藏界大日如来像



「天王山」の掲額。小さな地藏堂等か？間口4間奥行4間のお堂で圓光寺とは直接関係ないか？



愛宕山大権現・熊野本宮大社・稻荷神社

